

国語 第2学年 同じ ぶぶんをもつ かん字 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。同じ部分をもつ漢字を比べ、字形や意味を確かめて使う。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

———ここから直す対象の学習指導案———

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名「同じ ぶぶんをもつ かん字」 教材名「同じ ぶぶんをもつ かん字」

2 単元の目標

第2学年までに配当されている漢字を読むことができるとともに、文や文章の中で使うことができる。（〔知識及び技能〕(1)エ）

同じ部分をもつ漢字を比べ、字形や意味を確かめて使う学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①第2学年までに配当されている漢字を読むとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ）

〔思考・判断・表現〕①この教材単独では記録に残す評価を行わず、関連する言語活動の単元で見取る。

〔主体的に学習に取り組む態度〕①同じ部分をもつ漢字を比べ、字形や意味を確かめて使う学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

同じ部分をもつ漢字を比べ、字形や意味を確かめて使う。この教材では、漢字の構成の図、同じ部分をもつ字の例、意味や字形を確かめた自作文を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。公式年間計画は知識・技能に重点を置く短い教材としている。本案でも本時は知①を中心に記録し、思考・判断・表現をこの教材だけで独立して評定する扱いにはしない。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

教科書で扱う既習漢字を部品カードに分け、正字の見本で位置と大きさを確かめる。独自例「木」と木へんの字を比べ、存在しない組合せは造字と区別する。想定する難しさは、似ている部分があるという理由だけで、読みや意味も同じだと決める。評価では、第2学年までに配当されている漢字を読むとともに、文や文章の中で使っているかを、漢字の構成の図、同じ部分をもつ字の例、意味や字形を確かめた自作文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。既習漢字の同じ部分を探し、位置や形を比べる。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時（本時）：○既習漢字の同じ部分を探し、位置や形を比べる。読みと意味を確かめ、その字を使う文を書いて正字と照合する。対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試

す。 評価：知①（発言・活動中の記録・作成物）

6 本時の指導（2／2）

（1）本時の目標

第2学年までに配当されている漢字を読むことができるとともに、文や文章の中で使うことができる。（〔知識及び技能〕(1)エ）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。

○「同じ部分があっても、字全体では何が違いますか」

【めあて】同じ部分をもつ漢字を比べ、字形や意味を確かめて使う。

予想される児童の反応：・同じ部分が違う字にも入っている。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「同じ部分があっても、字全体では何が違いますか」

既習漢字の同じ部分を探し、位置や形を比べる。読みと意味を確かめ、その字を使う文を書いて正字と照合する。

対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。

予想される児童の反応：・同じ部分が違う字にも入っている。

・似た形でも長さや位置を確かめたい。

指導上の留意点：教科書で扱う既習漢字を部品カードに分け、正字の見本で位置と大きさを確かめる。独自例「木」と木へんの字を比べ、存在しない組合せは造字と区別する。

想定する難しさ：似ている部分があるという理由だけで、読みや意味も同じだと決める。

評価では、第2学年までに配当されている漢字を読むとともに、文や文章の中で使っているかを、漢字の構成の図、同じ部分をもつ字の例、意味や字形を確かめた自作文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：知① 第2学年までに配当されている漢字を読むとともに、文や文章の中で使っている。（発言・活動中の記録・作成物）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

漢字の構成の図、同じ部分をもつ字の例、意味や字形を確かめた自作文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・似た形でも長さや位置を確かめたい。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「同じ部分があっても、字全体では何が違いますか」。中央は、漢字の構成の図、同じ部分をもつ字の例、意味や字形を確かめた自作文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

